

令和5年度第2回史跡めぐり

「筑波海軍航空隊記念館・笠間稻荷神社・^{しゅんぷうばんりそう}春風萬里荘」

令和6年3月7日（木）実施

1. 「筑波海軍航空隊記念館」



前日の雨は止みましたが、中野は寒い天気でした。天気予報では笠間は晴れの予報を信じ、区役所横から総勢42名で茨城県笠間市の筑波海軍航空隊記念館を目指して午前8時10分に出発。早稲田通りから山手通りを経由し高松から首都高へ、常磐道に向かい東京スカイツリーを眺めながら順調に走行し、利根川を渡った守谷SAで休憩を取り、最初の見学地笠間市の筑波海軍航空隊記念館へ。10時30分には到着。

記念館では説明役の方が迎えてくださり当時の建物に昭和9年に霞ヶ浦航空隊友部分遣隊として開隊し、昭和13年に筑波海軍航空隊として独立した。戦時中は特攻隊の訓練が実施され60人の兵士が鹿児島県の鹿野野基地から飛び立ち戦死している。

建物内の見学をし、DVDで兵士の方の経歴などが紹介されている映像を見心にしみる思いをしました。館内にはゼロ戦の尾翼が展示してありましたが、ぺらぺらの鉄板でつくられていることにびっくりしました。説明役の方が学生時代に中野2丁目の城山公園近くの下宿しておられたとの事で中野談議で盛り上がりました。

2. 笠間稲荷神社



笠間稲荷神社は日本三大稲荷神社（京都の伏見稲荷は確定している、愛知の豊川稲荷、佐賀の祐徳稲荷のどちらかが入っている）として知られている。創建は白雉2年（651年）第36代孝徳天皇の時とされている。

御祭神は宇迦之御魂神（うかのみたまのかみ）で生命の根源を司る「いのち」の根の神として農業、工業、商業、水産業など、あらゆる殖産興業の守護神として人々の生活すべてに御神徳を授けて下さる神さまです。

秋の菊人形の展示で世間に知られている。

見学時は本殿が1700年に造営されてからてがくわえられていないため屋根が傷み雨漏り発生のために復旧工事で覆いに囲われていたので彫刻などを見ることが出来なく残念でした。

かつてこの場所は胡桃の密林であったところに稲荷大神様が祀られていたことから「胡桃下稲荷」とも呼ばれ境内にはご神木として胡桃の古木がありました。

しゅんぷうばんりそう
3. 春風萬里莊



昭和 39 (1964) 年、洋画家朝井閑右衛門と小説家田村泰次郎が、長谷川仁笠間日動美術館前理事長と笠間を訪れた折り、笠間にアトリエを作りたいという作家達の要望から、「芸術の村」の構想がでてきました。昭和 40 年には、北大路魯山人が住居としていた約 300 平方メートルの茅葺き民家を北鎌倉より移築し、「春風萬里莊」と名付け、「芸術の村」は開設されました。

「春風萬里」とは、北大路魯山人が好んで用いた造語です。

春風萬里莊の前には広大な庭園があり、桜、梅、つつじ、もみじ、花菖蒲などをはじめとする多くの草木が生い茂り、それぞれの趣の花々が一年中咲き誇ります。見学時は三種の黄色い花が咲いていました。

北大路魯山人自らが設計した茶室「夢境庵」、京都・龍安寺を模してつくられた枯山水による石庭、睡蓮の池にかかる太鼓橋などもととのえられています。

